

第 4 学年 1 組 社会科学習指導案

平成27年 2 月 6 日 (金) 公開授業 II
会 場 2 階-③教室
授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
教諭 大矢 和憲

1 単元名 This is わたしたちのまちづくり - 県内の特色あるまちづくり -

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領 3 学年及び 4 学年の内容(6)ウ、(7)アに準拠して設定したものである。本単元の目標は次のとおりである。

自然環境や地域に残る文化や伝統を生かしたまちづくりの様子や、市民が主体的に工夫や努力、協力をしてまちづくりをしている様子を具体的に調べたり考えたりすることを通して、地域の特色を生かしたまちづくりの概念をとらえることができる。

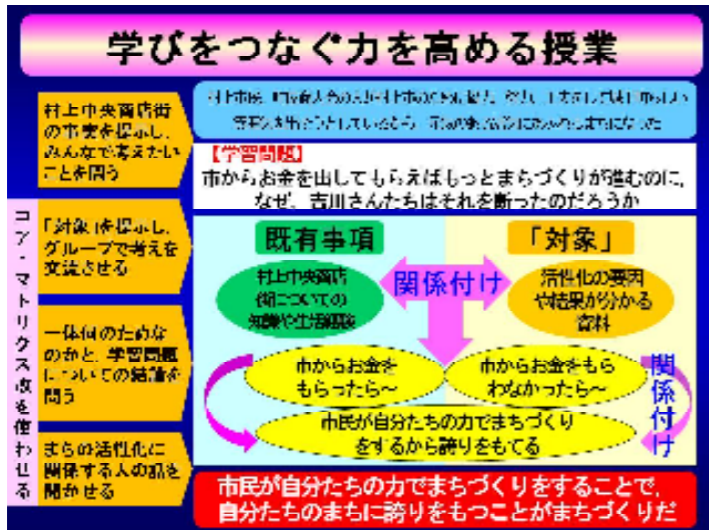
本単元では、県内の「特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域」として、村上市と十日町市の事例を取り上げる。

村上市は新潟県下で最も古い城下町であり、全国でも珍しく城下町としての四大要素（城跡・武家屋敷・町屋・寺町）が現存している地域である。その中心部にある中央商店街では、近年城下町村上の資産である町屋を生かした住民主導のまちづくりが行われ、年間30万人の観光客が訪れるまでになった。現在も年間を通して市民主体による様々な取組が行われている。この事例からは、「歴史ある建造物や街並み、祭りなどの地域の伝統や文化を受け継ぎ保護・活用しながら、地域の人々が互いに協力して、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていること」を学ぶことができる。

また十日町は、「現代雪まつり発祥の地」として知られている。豪雪地域でありながら、「雪を友とし雪を楽しむ」という住民の自発的な思いから「十日町雪まつり」が始まった。また、国の伝統的工芸品に指定されている「十日町餅」と「きもの」文化がまちの資産であり、きもの産業は伝統的地場産業として根付いている。この事例からは、「自然と伝統的な工業を保護・活用しながら、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていること」を学ぶことができる。

これらのまちづくりの事例から、その地域に住む人々の工夫（知恵）や努力（汗）、協力の様子や願いを具体的に学ぶようにする。どちらも地域の特色を生かしたり、地域に暮らす人々が互いに協力したりして、自分たちのまちを明るく元気にしようとまちづくりをしている。このような県内のまちづくりの様子を学ぶことで、県に対する誇りと愛情を育むことや、自分が暮らす地域のまちづくりについて考えていくことができる単元である。

3 単元における学びをつなぐ力を高めた姿と学びをつなぐ力



(1) 学びをつなぐ力を高めた姿

地域の特色を生かした**元気で活気のあるまちづくりの概念**をとらえる姿

吉川さんたち（まちの活性化に取り組んでいる人たち）が市の援助を断った事実について追究することを通して、「**市民が自分たちの力でまちづくりをすることで、自分たちのまちに誇りをもつことが本当のまちづくりだ**ということが分かった。だから、わたしも自分のまちに誇りをもってまちづくりに協力していきたい」などと考える姿。

(2) 対象

村上中央商店街の取組に関する資料（活性化の要因や結果が分かる資料）

(3) 学びをつなぐ力

「吉川さんたちが市の援助を断った事実」について、以下のように問題解決していく力。

- ① **比較するすべや関係付けるすべ**を用いて、既存の知識と新たな村上中央商店街の事実との間にずれを感じ、驚きや疑問を関連付けて、学習問題を設定する力。
- ② **関係付けるすべ**を用いて、既存の知識や生活経験を基に、対象から多面的・多角的に学習問題について考える力。
- ③ **関係付けるすべ**を用いて、様々な考えを総合して学習問題についての結論を考える力。

(4) 考え方の自覚

比較・関連付け・総合して考えたことや、考え方の有用性を自覚している姿

子どもは、前時までの学習で、「市民が村上市のために、工夫や努力、協力をして城下町らしい雰囲気を出そうとしているから、元気のある活気あふれるまちになった」ということが分かった。しかし、まちが活性化した結果や要因については分かったが、「なぜ、市民が自分たちでまちづくりをすることがよいのか」という、市民主体のまちづくりの本質（意味や価値）まではとらえていない。

このような子どもが目指す姿になるには、まちの活性化に取り組んでいる人たちが、どのような考え（思いや願い）でまちづくりをしているのかということに気付く必要がある。そのために、以下のように働き掛ける。

4 指導の構想

働き掛け 1（2 日目）

村上市から援助の申し出があった事実と、吉川さん（まちの活性化に取り組んでいる人）たちがそれを断った事実を提示し、これからみんなで考えたいことを問う。

市民主体のまちづくりの本質について追究させていくために、まず、吉川さんたち（まちの活性化に取り組んでいる人たち）の取組に対し、村上市から「祭りの費用やまちの復元に必要な費用を出していきたい」という話があった事実（資料①）を提示し、思ったことを問う。子どもは、吉川さんたちの取組が市に認められたことに喜んだり、市からの援助を受ければもっと明るく元気なまちになると考えたりする。

このような子どもに、次に、吉川さんたちが「市からお金を出してもらうことも、取組の計画をしてもらうこともすべて必要ないと断った」という事実を提示し、驚いたことや疑問に思ったことを問う。子どもは、**比較するすべや関係付けるすべ**を用いて、2つの事実から、「市からお金を出してもらえばもっとよくなるのに」「なぜ断ったのか」などと、驚きや疑問を感じる。

このような子どもに、これからみんなで考えたいことを問う。子どもは、**比較するすべや関係付けるすべ**を用いて驚きや疑問を焦点化し、「市からお金を出してもらえばもっとまちづくりが進むのに、なぜ、吉川さんたちはそれを断ったのだろうか」と、市民主体のまちづくりの本質について追究する学習問題を設定する。

働き掛け 2（2 日目）

前時のコア・マトリクスと村上中央商店街の取組に関する資料（資料③：「対象」）と、コア・マトリクス（改）を提示し、考えを交流させる。

学習問題を設定した子どもは、「市からお金をもらおうとこうなるから」「もらわないとこうなるから」と、2つの状況を想定して予想を始める。このとき、根拠となる事実を明らかにして多面的・多角的に考えさせるために、「何か考える手掛かりになりそうなものはないか」と問う。子どもは、学習問題を解決するために、資料③や前時のコア・マトリクスが手掛かりになることに気付く。このような子どもに資料③と前時のコア・マトリクスを提示し、グループ（班）で話し合うように指示する。このとき、グループにコア・マトリクス（改）を与え、「お金をもらう

場合ともならない場合とでは、どうなりそうか」と問う。コア・マトリクス（改）は、「市からお金をもらおう」「市からお金をもらわない」と、2つの状況で考えを広げていくことができるようになっていく。子どもは、**比較するすべ**や**関係付けるすべ**を用いて、前時のコア・マトリクスや資料③の情報、吉川さんの話、自分の生活経験を基に、2つの状況で起こりうること（学習問題の解決につながる理由や目的）をグループで考えていく。



働き掛け3 (2日目)

断ったのは一体何のためなのかと、学習問題についての結論を問う。

子どもは、グループで2つの状況で起こりうること（学習問題の解決につながる理由や目的）を多面的・多角的に考え、共有している。このような子どもに、総合して考える思考を促すために、「吉川さんたちが市の援助を断ったのは一体何のためなのか」と、学習問題についての結論を問う。そして、コア・マトリクス（改）のコア部分（結論）をグループで話し合わせ、記述させる。その後、本時の学習のまとめとして、自分の考えの結論をワークシートに記述させる。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、学習問題の解決につながる理由や目的を総合して考え、「**市民が自分たちの力でまちづくりをすることで、市民が自分たちのまちに誇りをもつことができるようになるためではないか**」などと、市民主体のまちづくりの本質に迫る考えの結論を導き出す。

本時ここまで

その後、考えを学級全体で交流させる。全体での考えの交流を通して、子どもが自分たちの結論の妥当性を確かめたいという状況になったら、次のように働き掛ける。

働き掛け4

まちを活性化させるための活動をしている人の話 (VTR) を聞かせる。

子どもが考えた結論の妥当性を確かめさせるために、まちを活性化させるための活動をしている人（町屋商人会：吉川真嗣さん）の話の聞かせる。この場面では、吉川さんがどのようなことを考えて市の援助を断ったのかや、その結果どうなったのか。また、住民、市民が自分たちのまちに誇りをもつこと、自分たちの力でまちをよりよくしていくことが本当のまちづくりだということを話してもらうようにする。また、吉川さんから、「みんなも自分が住んでいるまちの行事などに進んで参加して、自分のまちに誇りをもってほしいと願っている」と投げ掛けてもらう。子どもは、吉川さんの話を聞き、自分たちが考えた結論の妥当性を確かめる。その後、学習問題について、分かったこと、考えたこと、思ったことを説明させる。子どもは**関係付けるすべ**を用いて、吉川さんの話と、自分たちが考えた学習問題についての結論を再構成し、「**市民が自分たちの力でまちづくりをすることで、自分たちのまちに誇りをもつことがまちづくりだということ**が分かった。だから、わたしも自分のまちに誇りをもってまちづくりに協力していきたい」などととらえ、**地域の特色を生かしたまちづくりの概念をとらえる子ども**になる。

働き掛け5 (宿題)

学習後の宿題として、2つの視点を与え、「社会科学習日記」を書かせる。

日常的に「社会科学習日記」(宿題)を書かせている。ここでは、①どのように何を学んだのか、自分の学習過程と、②考え方のコツを書かせるように指導する。子どもは、方法知としての社会的な見方や考え方をメタ認知し、以降の学習においても学び方や考え方を活用して学習していくようになる。

5 指導計画 全16時間 (48Q)

別紙「指導計画」参照

6 本時の構想<2日目> 9/16時間 (45分授業)

(1) ねらい

吉川さんたちが市の援助を断った事実について驚きや疑問を感じ、調べたり考えたりすることを通して、市民主体のまちづくりの本質に迫る考えの結論を導き出すことができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆考えるすべ	教師の働き掛け
<p>1 2つの事実に驚きや疑問を感じ、学習問題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなお知らせかな。知りたいな。 ・やったね。市も協力してくれるんだ。 ・もっとまちづくりが進んで、明るく元気なまちになりそうだ。 ・どんな続きかな。知りたいな。 ・えーっ!? なんて? ・市からお金をもらえば、もっといろいろなことができそうなのに。 ・どうして断ったのかな。 ・いい話なのに断ったことにビックリした。 <p>【学習問題】</p> <p>◎市からお金を出してもらえばもっとまちづくりが進むのに、なぜ、吉川さんたちはそれを断ったのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの力でやりたかったからかな。 ・市からお金をもらおうと…、もらわないと…。 <p>☆比較するすべ・関係付けるすべ</p>	<p>【働き掛け1】</p> <p>○説明「実は、吉川さんから新しいお知らせが届いています。知りたいですか」</p> <p>※市からの援助の申し出があった事実を伝える手紙を黒板に提示し、全員で読ませる。</p> <p>○指示「思ったことを発表しましょう」</p> <p>※肯定的な意見を採り上げ、板書する。</p> <p>○説明「実は、この手紙には、まだ続きがあるんです。知りたいですか」</p> <p>※吉川さんたちが断った事実を伝える手紙を黒板に提示する。</p> <p>○指示「驚いたことや疑問に思ったことを発表しましょう」</p> <p>※子どもの驚きや疑問を採り上げ、板書する。</p> <p>○発問「みんなの驚きや疑問をまとめると、これからみんなで考えたいことはどんなことですか」</p> <p>※本時のワークシートを配付する。</p> <p>○指示「驚きや疑問と学習問題、考え①を書きましょう」</p>
<p>2 学習問題の解決につながる理由や目的を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの資料にヒントがあるかも。 <p>【市からお金をもらおうと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が工夫や努力をする必要が無くなる。 ・そうすると、意味がないんじゃないか。 ・市民が自分たちの力でやったという達成感が無くなる。 ・資料に「市民の手で作る」って書いてある。 <p>【市からお金をもらわないと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまりお金をかけられない。 ・自分たちで工夫や努力をしないとイケないからいいんじゃないかな。 ・吉川さんが誇りをもつって言っていたよ。 ・資料に「誇りあるまちづくり」って書いてある。 <p>☆関係付けるすべ</p>	<p>【働き掛け2】</p> <p>○発問「何か考える手掛かりになりそうなものはありますか」</p> <p>※前時のコア・マトリクスと資料③を提示。</p> <p>○説明「今日は、このウェブ&コア・マトリクスを与えます」</p> <p>○発問「お金をもらう場合と、もらわない場合とでは、どうなりそうですか」</p> <p>○指示「まずは、班でマトリクス部分を考えて、書き込んでいきましょう」</p> <p>※班にコア・マトリクス（改）とプロッキーを配付する。</p> <p>※補助発問：机間巡視をして、「そうするとどうなるのか」「なぜそうなるのか」「何からそう考えたのか」などと問う。</p> <p>※「つまり」「だから」などの、関係付ける言葉が出てきたら、次の働き掛けを行う。</p>
<p>3 学習問題についての結論を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市からお金をもらったら、市に頼ってしまうし、自分たちがやったという気持ちにならない。 ・やっぱり市民が自分たちの力で工夫や努力、協力をしてまちづくりをすることで、自分たちのまちに誇りをもつことができるようになるためじゃないかな。 <p>☆関係付けるすべ</p>	<p>【働き掛け3】</p> <p>○発問「それでは、吉川さんたちが市の援助を断ったのは一体何のためですか」</p> <p>○指示「班で話し合っってコア部分に書きましょう」</p> <p>○指示「今日の学習のまとめとして、自分の考えをワークシートの考え②に書きましょう」</p> <p>※指示「社会科日記」(宿題) 【働き掛け5】</p>

(3) 評価

2つの事実から驚きや疑問を感じ、既知の知識や生活経験を基に調べたり考えたりすることを通して、市民主体のまちづくりの本質に迫る考えの結論を導き出すことができたかどうかをワークシートや発言から評価する。

